

3 多文化共生についての市民アンケート結果の概要

外国人市民アンケート調査の実施概要

くば 配った人	あんじょうし す さいいじょう がいこくじんしめん 安城市に住む16歳以上の外国人市民
しら 調べた期間	ねん がつ にち がつ にち 2023年11月13日～12月15日
くば かず 配った数・ あつ かず 集めた数	くば かず けん あつ かず けん かいしゅうりつ 配った数：1,000件 集めた数：302件（回収率30.2%） とど かず けん 届かなかった数：8件

日本人市民アンケート調査の実施概要

くば 配った人	あんじょうし す さいいじょう にほんじんしめん 安城市に住む16歳以上の日本人市民
しら 調べた期間	ねん がつ にち がつ にち 2023年11月13日～12月15日
くば かず 配った数・ あつ かず 集めた数	くば かず けん あつ かず けん かいしゅうりつ 配った数：2,000件 集めた数：860件（回収率43.0%） とど かず けん 届かなかった数：10件

ちょうさけっか がいよう
■調査結果の概要

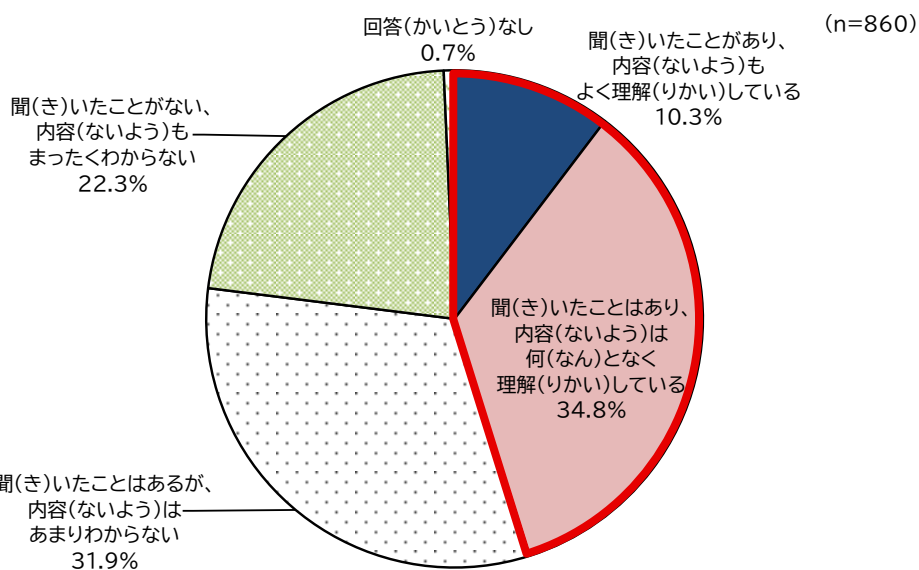
たぶん かきようせい にほんじんしみん べっさつ とい
多文化共生がわかる 日本人市民【別冊①-問24 (p.33)】

・「聞いたことがあり、内容もよく理解している」と「聞いたことはあり、内容はなんとなく理解している」の合計は45.1%だった。

※2018年に調べたときは33.6%だった。

・「聞いたことがない、内容もまったくわからない」と答えた人は22.3%だった。

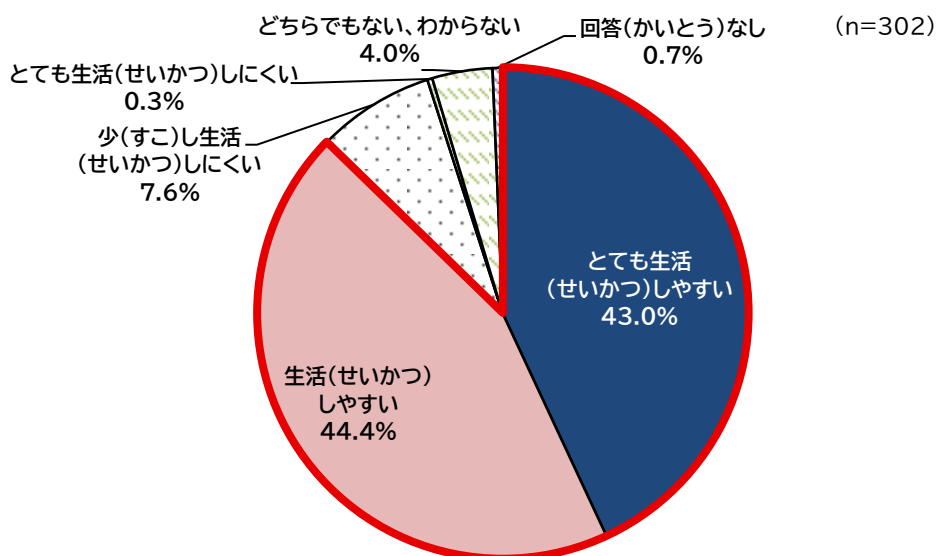
※2018年に調べたときは31.1%だった。



あんじょうし す ばしょ おも がいこくじんしみん べっさつ
安城市を住みやすい場所だと思ふ 外国人市民【別冊②-Q8 (p.11)】

・「とても生活しやすい」と「生活しやすい」の合計は87.4%だった。

※2018年に調べたときは87.5%だった。



ちいき まつりや しごと さんか がいこくじんしみん
地域の まつりや 仕事に 参加したことの ある 外国人市民

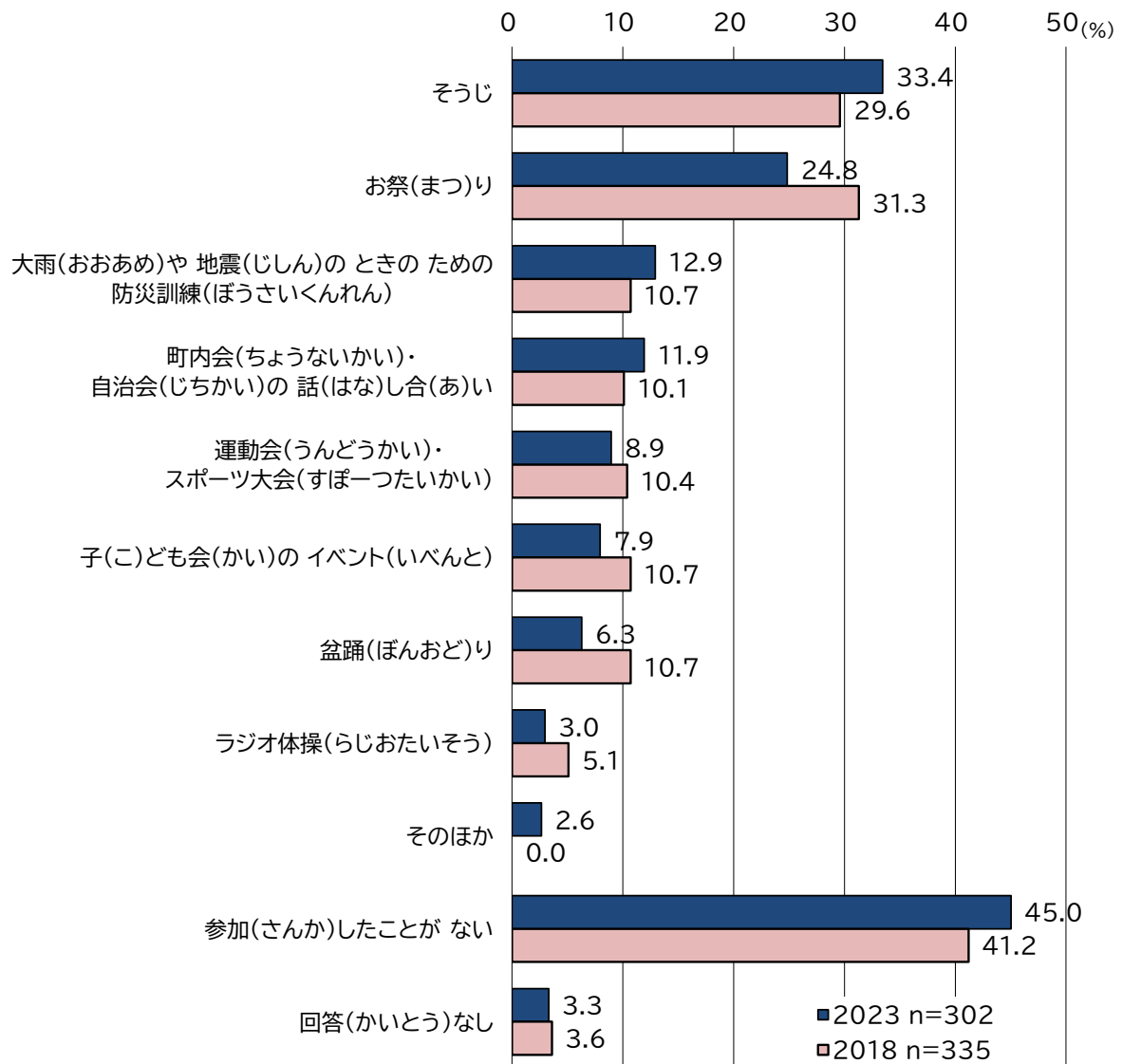
べっさつ
【別冊②-Q19 (p.32)】

・「参加したことが ない」と「回答なし」の 合計は 48.3%だった。

⇒51.7%の 人が、地域の まつりや 仕事に 参加したことがある。

※2018年に 調べたときは 55.2%だった。

・日本人市民は、76.8%の 人が、地域の まつりや 仕事に 参加したことが あった。(【別冊①-問15 (p.23)】)



がいこくじんしゅみん にほんじんしゅみん こうりゅう
外国人市民と 日本人市民の 交流

【別冊①-問10,10-1 (p.14~p.15)、別冊②-Q16,16-1 (p.26~p.27)】

- ・日本人市民で、「最近 外国人と コミュニケーションを とった」人は 36.2% だった。

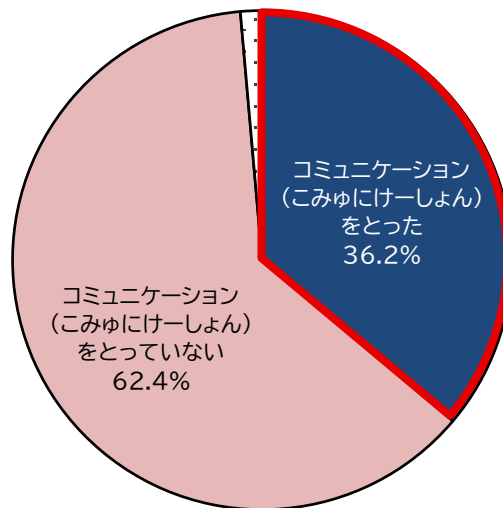
※2018年に 調べたときは 35.5%だった。

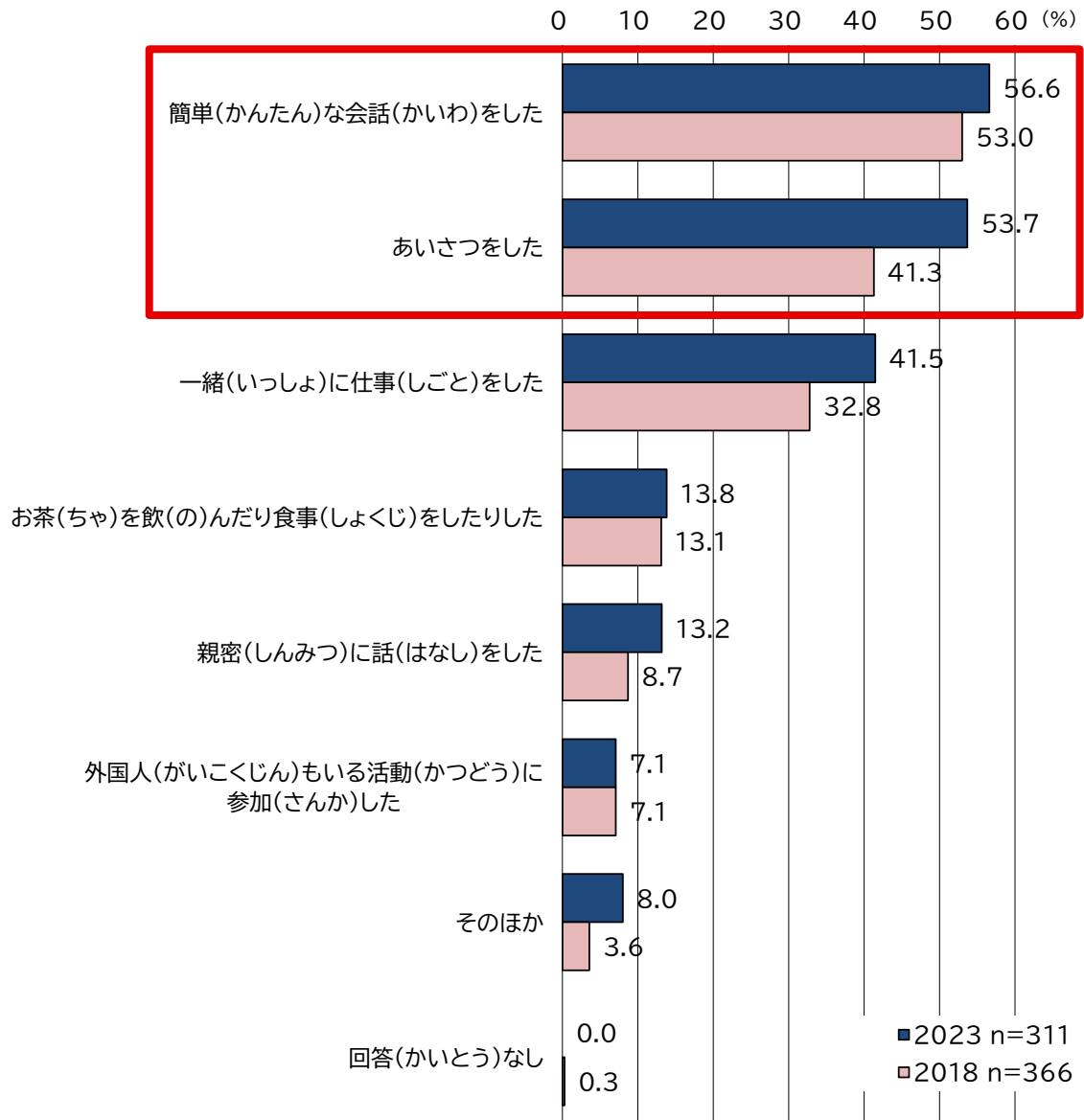
- ・日本人市民が 外国人市民と 行った コミュニケーションは、「簡単な 会話を した」や「あいさつを した」が多かった。

にほんじんしゅみん あんけーと
<日本人市民アンケート>

回答(かいとう)なし
1.4%

(n=860)





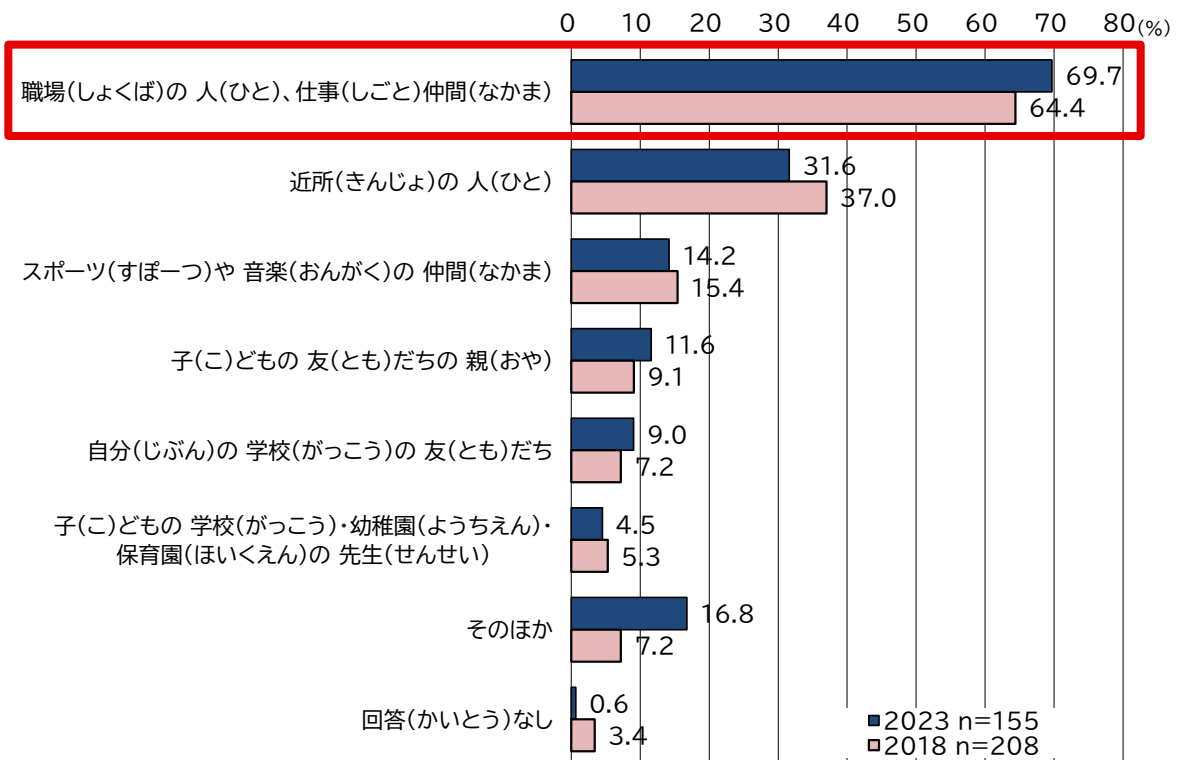
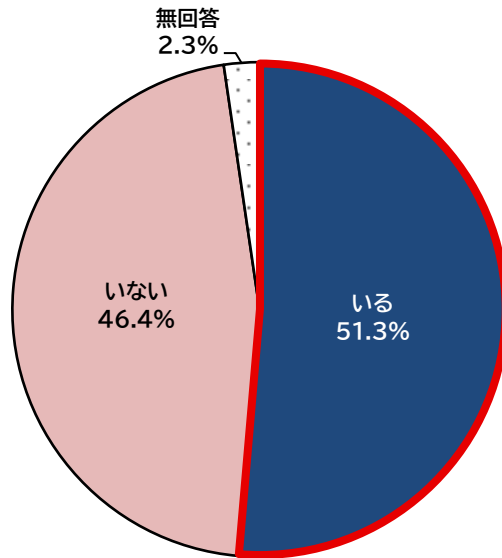
外国人市民で、「家族以外で 仲のよい 日本人が いる」人は 51.3%だった。

※2018年に 調べたときは 62.1%だった。

外国人市民と 仲のよい 日本人は、「職場の 人、仕事仲間」が 一番 多かった。

外国人市民アンケート

(n=302)

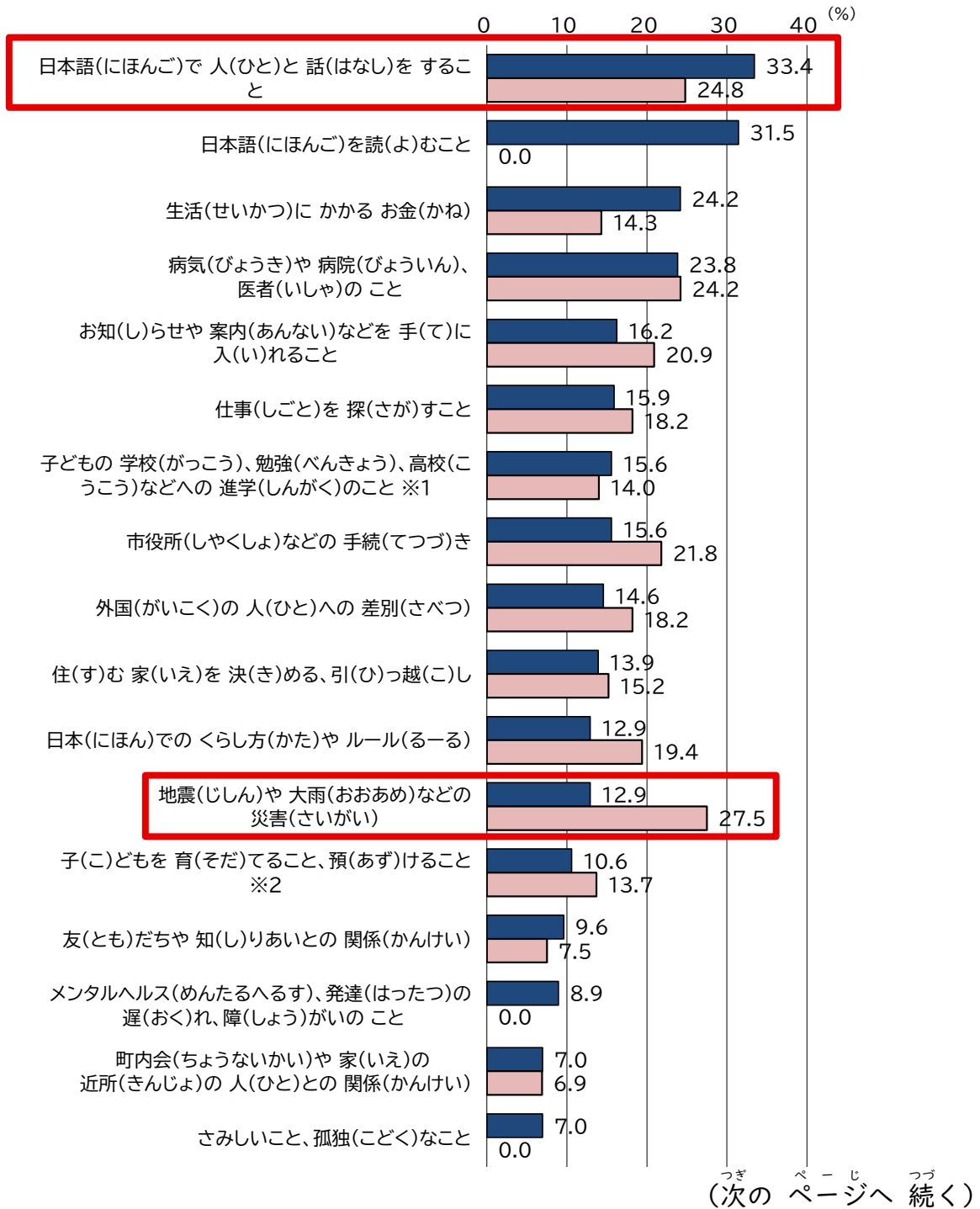


外国人市民が困っていること、相談したいこと【別冊②-Q28 (p.47~p.48)】

・「日本語で人と話をすること」が33.4%で一番多かった。

※2018年に調べたときは、「地震や大雨などの災害」と答えた人が27.5%で

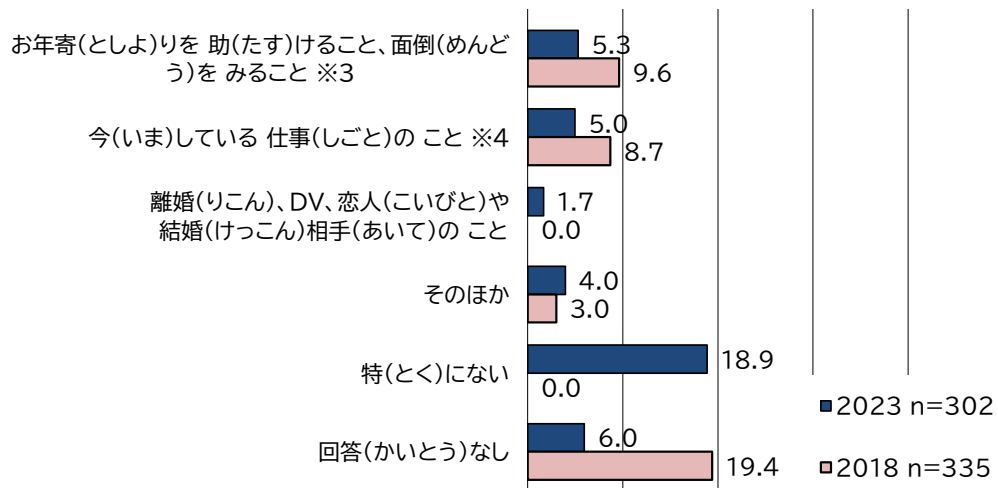
一番多かったが、今回調べた結果は12.9%だった。



※1 2018年は「教育(きやういく)や勉強(べんきょう)のこと」

※2 2018年は「子ども(こども)を育て(そだ)てること」

まえ ページからの つづ
(前の ページからの つづ)

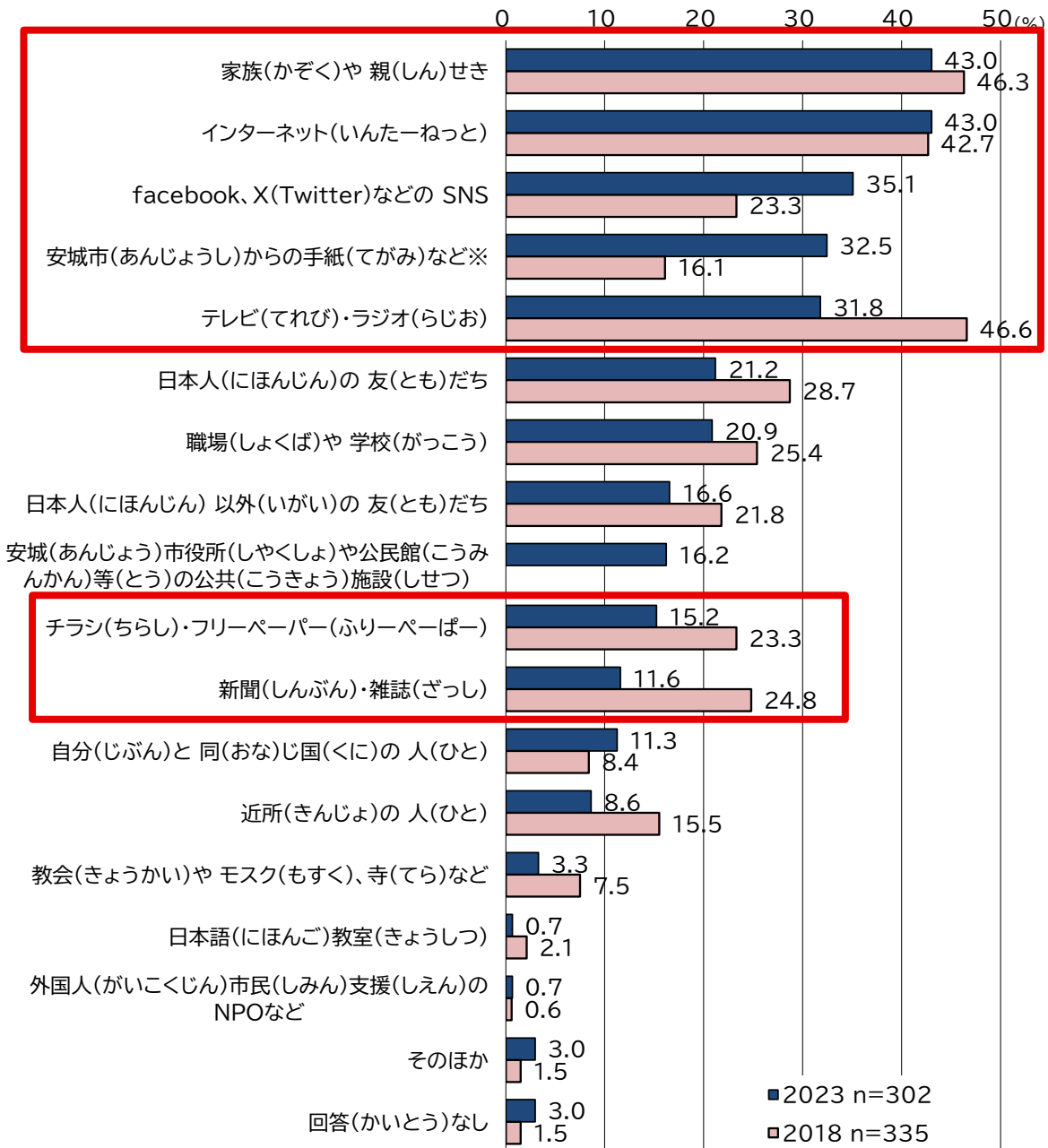


※3 2018年は「お年寄りを 助けること」

※4 2018年は「今 している 仕事や 仕事をする 場所」

外国人市民が 情報を 手に 入れる 方法【別冊②-Q25 (p.44)】

- ・「家族や親せき」、「インターネット」が43.0%で一番多かった。
- ・2018年に調べたときと比べて、「facebook、X(Twitter)などのSNS」、「安城市からの手紙など」の割合が増えた。
- ・2018年に調べたときと比べて「テレビ・ラジオ」、「チラシ・フリーペーパー」、「新聞・雑誌」の割合が減った。

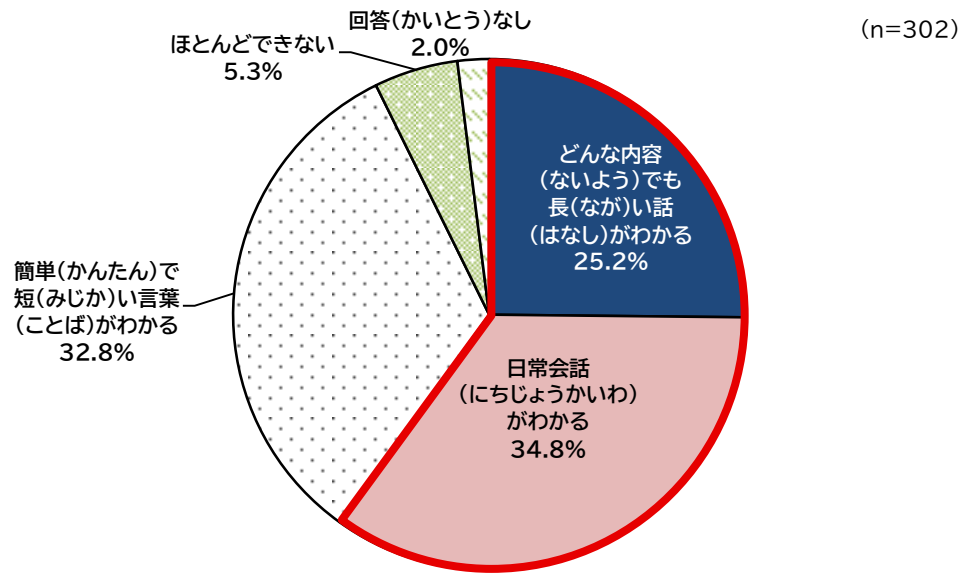


※2018年は「安城市や国際交流協会からのお知らせ」

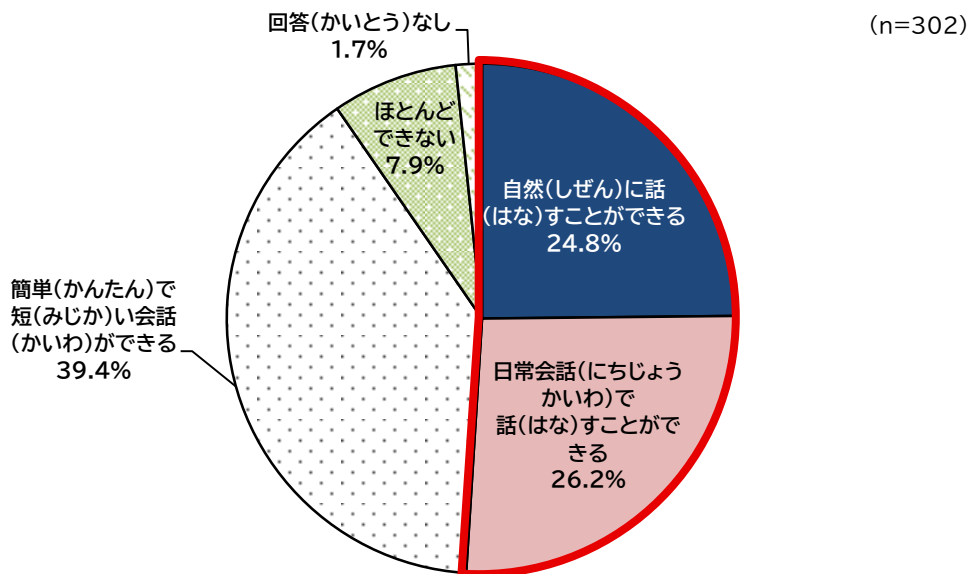
がいこくじんしみん にほんご のうりよく べっさつ
外国人市民の日本語の能力【別冊②-Q21 (p.35~p.38)】

- ・「聞く」は、「どんな内容でも長い話がわかる」と「日常会話がわかる」の合計が 60.0%だった。
- ・「話す」は、「自然に話すことができる」と「日常会話で話すことができる」の合計が 51.0%だった。

<聞く>

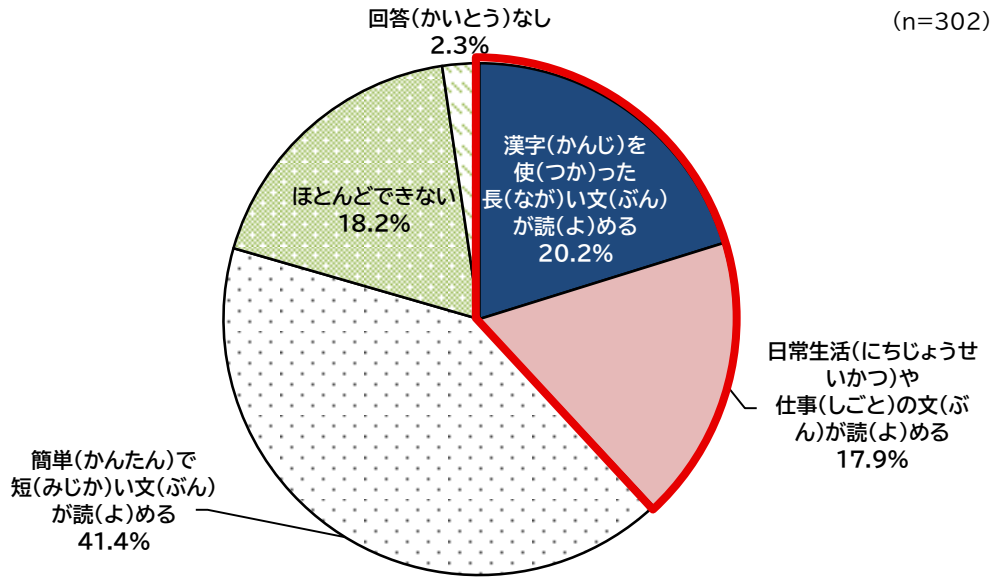


<話す>

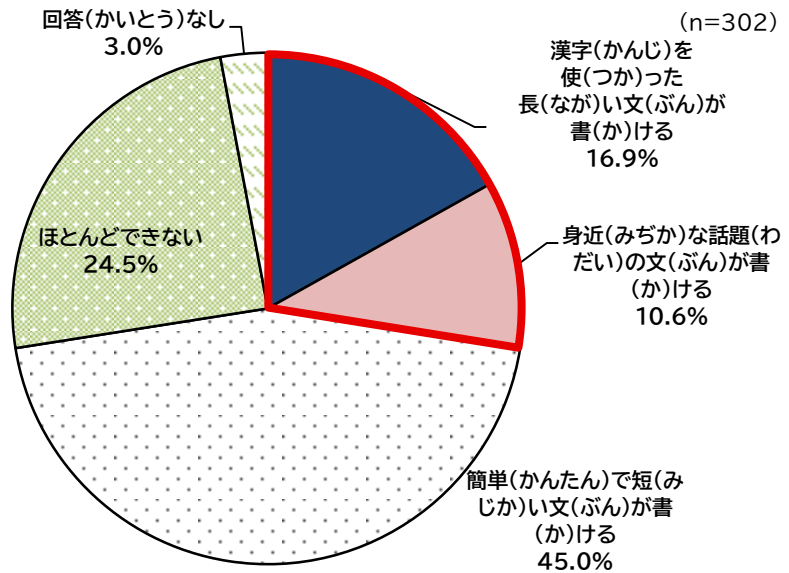


- ・「読む」は、「漢字を使った長い文が読める」と「日常生活や仕事の文が読める」の合計が 38.1% だった。
- ・「書く」は、「漢字を使った長い文が書ける」と「身近な話題の文が書ける」の合計が 27.5% だった。

<読む>



<書く>

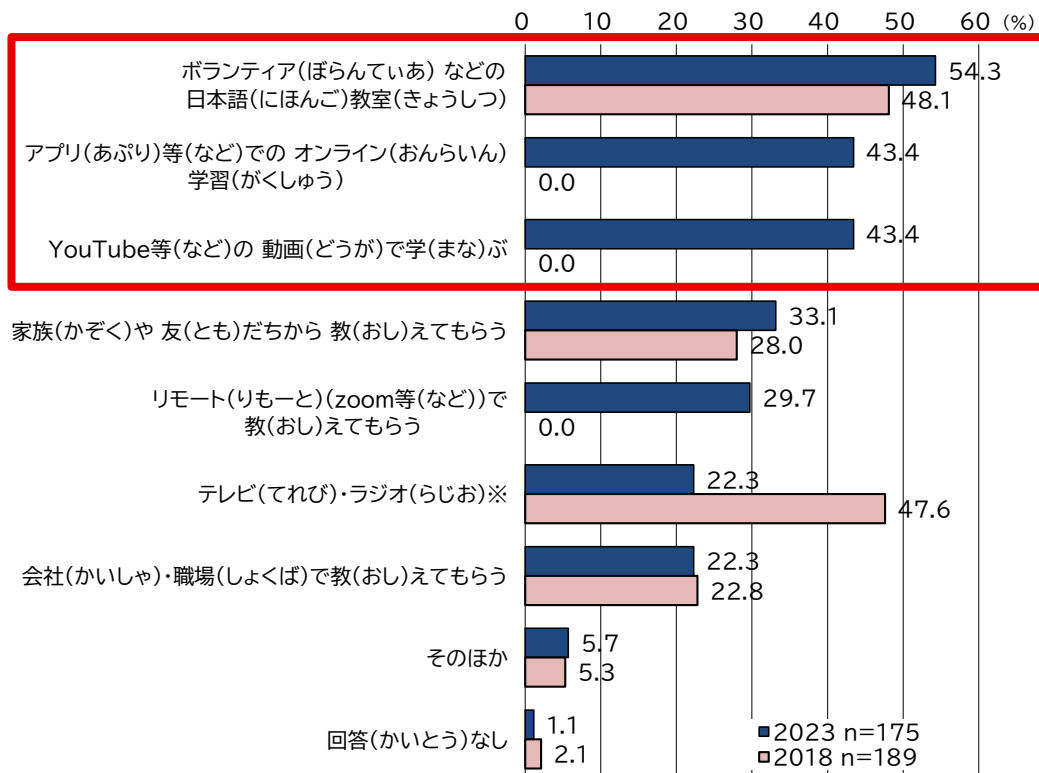
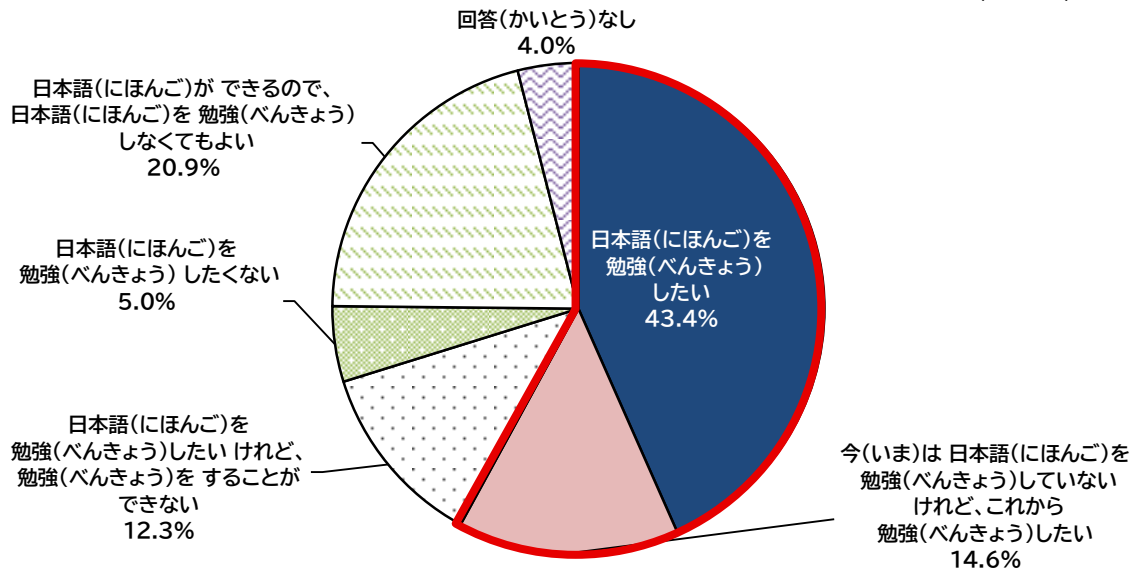


外国人市民が今日本語を勉強したいか どうか

【別冊②-Q24,24-1 (p.41~p.42)】

- ・「日本語を勉強したい」と「今は日本語を勉強していないけれど、これから勉強したい」の合計が58.0%だった。
- ・勉強のやり方は、「ボランティアなどの日本語教室」が54.3%で一番多かった。「アプリ等でのオンライン学習」、「YouTube等の動画で学ぶ」と答えた人も多かった。

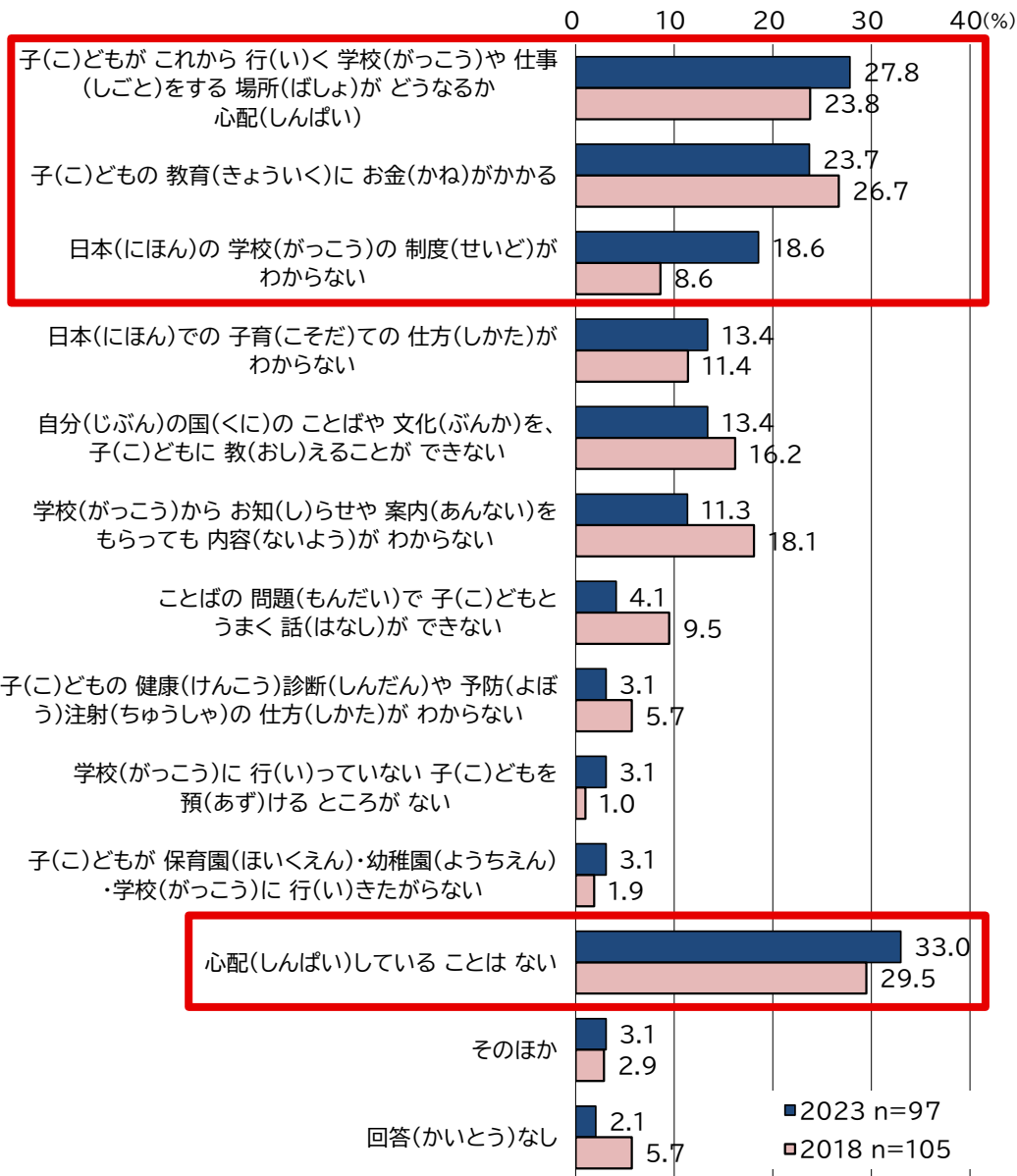
(n=302)



がいこくじんしみん こそだ きょういく しんぱい
外国人市民が 子育てや 教育のことで 心配していること

べっさつ
【別冊②-Q14-4 (p.24)】

- ・「心配していることは ない」が 33.0%で 一番 多かった。
- ・心配していることは、「子どもが これから 行く 学校や 仕事を する 場所が どうなるか 心配」、「子どもの 教育に お金がかかる」、「日本の 学校の 制度が わからない」と 答えた 人が 多かった。

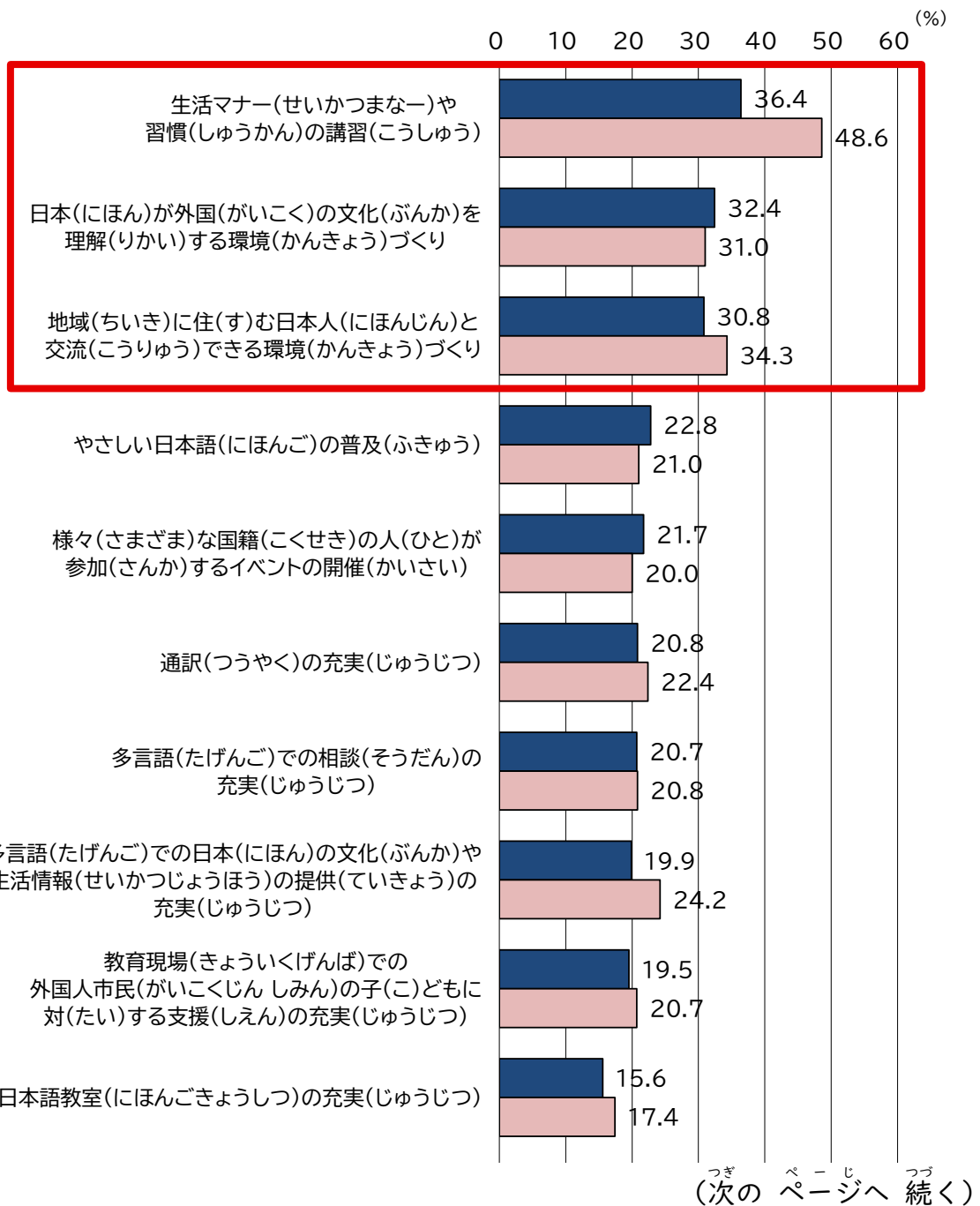


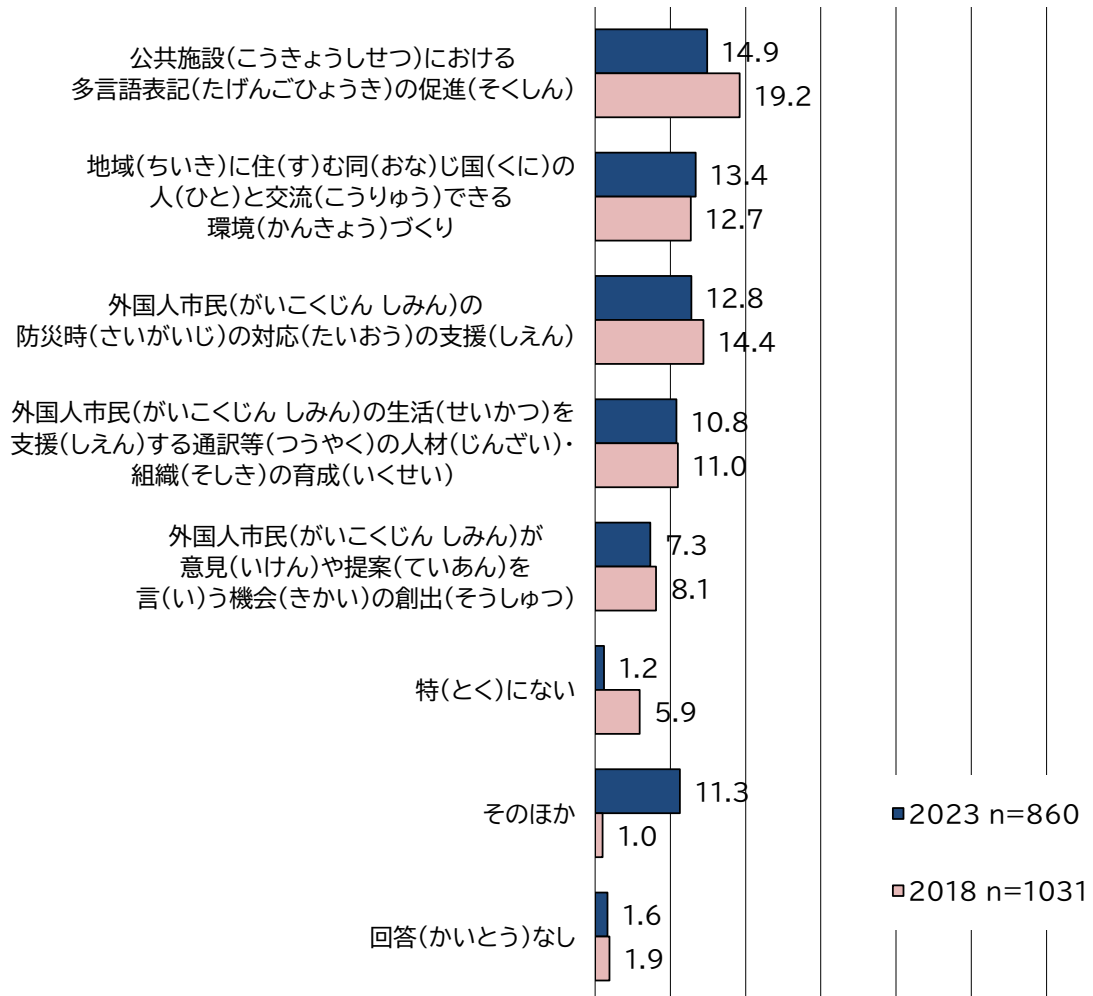
たぶんかきょうせい ひつよう
多文化共生のために必要なこと

べっさつ とい べっさつ
【別冊①-問29 (p.38~p.39)、別冊②-Q37 (p.57~p.58)】

- にほんじんしみん せいかつまな しゅうかん こうしゅう にほん がいこく ぶんか りかい
 ・日本人市民は、「生活マナーや習慣の講習」、「日本が外国の文化を理解する環境づくり」、「地域に住む日本人と交流できる環境づくり」と答えた人が多かった。

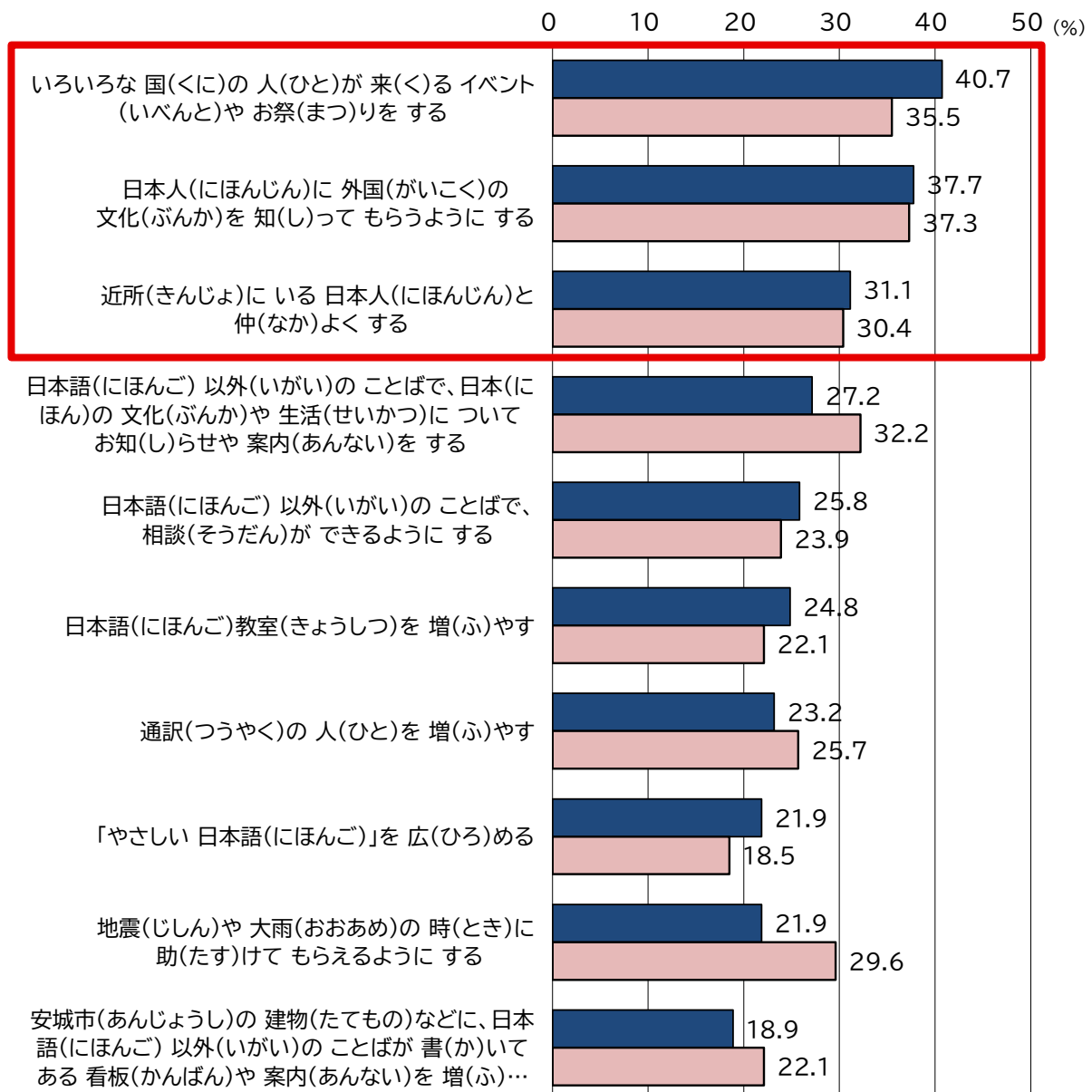
にほんじんしみん あんけーと
 <日本人市民アンケート>



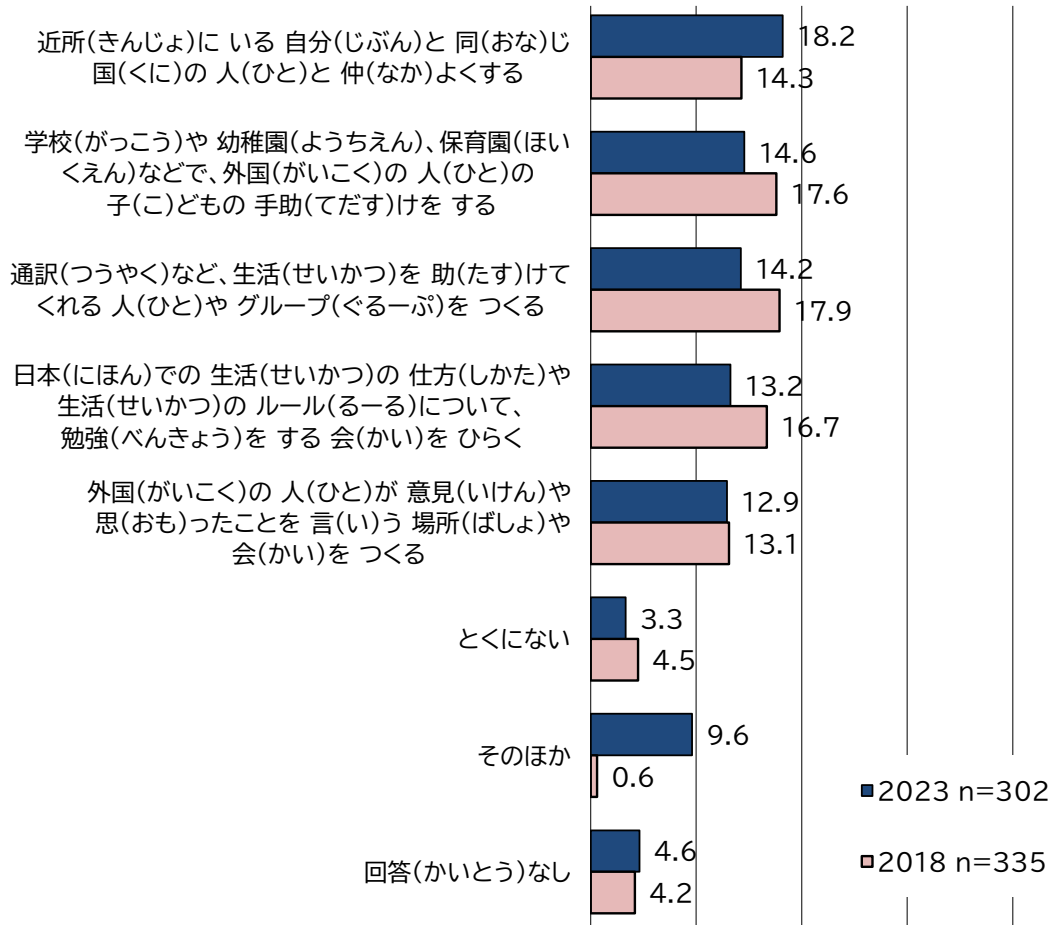


・外国人市民は、「いろいろな国の人が来るイベントやお祭りをする」、
 「日本人に外国の文化を知ってもらうようにする」、「近所にいる日本人と
 仲よくする」と答えた人が多かった。

外国人市民アンケート



(次のページへ続く)

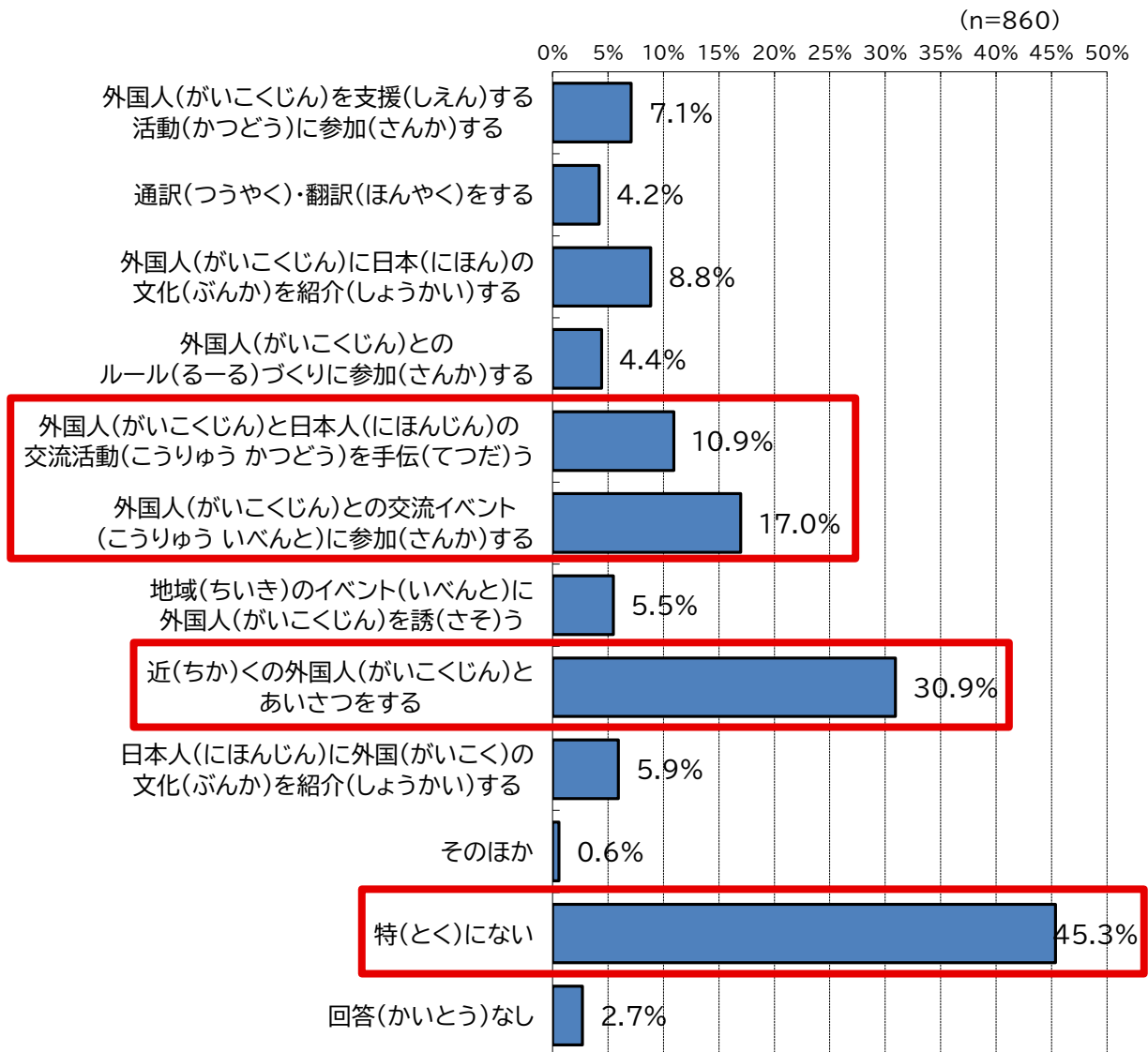


たぶん かきょうせい かが かつどう さんか おも
 多文化共生に関わる活動で参加したいと思うもの

べっさつ とい べっさつ
 【別冊①-問28 (p.37)、別冊②-Q36 (p.56)】

- ・日本人市民は、「特(とく)にない」が45.3%で一番多かった。
- ・「近くの外国人とあいさつをする」、「外国人との交流イベントに参加する」、「外国人と日本人の交流活動を手伝える」と答える人もいた。

にほんじんしみんあんけーと
 <日本人市民アンケート>



がいくじんしん
外国人市民は、^す「住んでいる ^{まち}町の ^{いべんと}イベントに ^{さんか}参加する」、「^{おな}同じ ^{くに}国の ^{ひと}人を ^{たす}助ける」、「^{ちか}近くの ^{にほんじん}日本人と ^{あいさつ}あいさつをする」と ^{こた}答えた ^{ひと}人が ^{おお}多かった。

がいくじんしんしんあんけーと
<外国人市民アンケート>

(n=302)

